



あすなる



「また、来年も」

校長 鈴木 華奈子

子どもたちは、様々な活動に、「こうなりたい。」
「こんなふうになりたい。」という願いをもって臨みます。

赤門祭では『また、来年も聴きにきたい』と思っ
てもらえる歌と演奏にしたい。」

あすなるフェスティバルでは「お客さんが『楽し
い!』『またやりたい』と思ってもらえるお店にした
い。」

「願い・思いは言葉にすることで実現できる」の
とおり、東っ子は動き出します。

それぞれの準備期間。

「ね、こうしたらどうだろう」「♪♪~」「いいね」
「じゃ、合わせてみよう!」自主パート練習をしたり、
話し合ったり、ポスターや道具をつくったり。
学校中の空き教室で、どんどん準備を進めます。

限られた期間。ゴールに向けて、仲間と一緒にフル稼働です。

そして迎えた当日。

音楽会。子どもたちは、真剣に耳を傾け、心を込めて全身で表現します。絵画展。「もっとゆっくり見たい」と声が聞こえるほど、それぞれの作品のよさとじっくり向き合います。あすなるフェスティバル。自分から声をかけたり働きかけたり。楽しんでもらえているか、困っていないか考え、自分の役割を果たしながら仲間と一緒に動き続けます。

子どもたちの「振り返り」では、心が震えるような「感動」や「驚嘆」、そして、人の笑顔でいっぱい時間と場を共有できた「喜び」や「やりがい」とともに、「ありがとう」の言葉がたくさんつづられていました。

たくさんの保護者・地域の皆様から、子どもたちに温かなお言葉・声援・拍手をいただき、誠にありがとうございました。子どもたちも喜んでおりました。活動ごとに思い・願いを実現していく子どもたちとともに「また、来年も…」お待ちしております。



赤門祭【校内音楽会&絵画展】



音を合わせる楽しさを感じて



音楽主任

「音を合わせるってなんて楽しいことなのだろう」と心から思った音楽会でした。

元気で明るい歌声、美しい高音の響き、子どもたちの真剣なまなざし、心を合わせて一生懸命に演奏する姿など見ていただけたでしょうか。どの学年も工夫を凝らし、見応え聴き応えのある発表になっていました。音楽会後の振り返りでは、お互いに称賛し合う声が聞かれました。子どもたちは、自分たちで作り上げたという充実感ややり切ったという達成感で満ちあふれた表情をしていました。

観客の皆様の手拍子や大きな拍手、温かいまなざしにより、子どもたちの演奏がより一層盛り上がりました。ありがとうございました。



芸術の秋 教室が美術館に



図工主任

赤門祭・絵画展に向けて、子どもたちはみんな、想いを込め、楽しみながら作品をつくりあげました。それぞれの学年ごとの題材やテーマに沿って、色合いや構図を工夫し、心を込めて丁寧に仕上げました。どの作品も、一人一人の思いが溢れる素敵な作品ばかりでした。その作品に込められている一人一人の世界を観ることにより、子どもたちの感性の素晴らしさを感じました。

赤門祭当日は、校舎内が美術館に大変身！あすなろ班のペア学年と一緒に作品をじっくり見て回りました。他の学年の絵を見て「カラフルな色づかいで楽しそう。」「こんなに細かく描けるなんてすごい！本物みたい！」「こんな絵を描けるようになりたい。」などと口々につぶやき、良さを味わいながら鑑賞する姿がありました。

今年度も、多くの方々にご来場いただき、ありがとうございました。



生まれながらの権利

校長 鈴木 華奈子

朝会である子の話をしました。

本が好き、工作が好き、ブロックが好き、ともだちと遊ぶのが大好きな男の子。いつも仲間と一緒に遊んでいました。

ある暑い日、仲間とのお出かけ中に、持ち歩いていた水筒がなくなりました。数日後、自宅の塀の上に自分の水筒がのっているのを見つけました。

「あ、僕の水筒だ。よかったあ。」「でも、なんでここに？」

別の日、お菓子を店で買い、公園で仲間と遊びました。家に帰り、財布の中のお金が減っているのに気がきました。「?」「どこかで落としちゃったのかな？」

しばらくのち、仲間からあだ名で呼ばれるようになりました。「〇〇!」あだ名で呼ばれるたびに、周りの人はニヤニヤ・クスクスと笑いました。

「?」「なんで、あだ名で呼ぶんだろう…。」「なんで、みんな、笑うんだろう…。」



「?」のことが続きました。

この子は、どんな気持ちだったでしょう。

この子のおうちの人は、どんな思いだったでしょう。

この子は今、大人になっています。あの頃の嫌な思いは、今でも心に重く残っているそうです。

物がなくなる、お金がなくなる、あだ名で呼ばれる、暴力を受ける、冷笑される、悪口を言われる無視される、仲間外れにされる、侮辱される、近よるなど拒否される、これらがもし自分だったら、、、と考えると、その辛さ・悲しさを慮ることができます。人の尊厳を傷つけることは、決してあってはならないのです。

私たちには、生まれながらに誰もがもっている「自分らしく生きる権利」があります。これを人権といい、人権は、だれもが自分らしく幸せになることができる力だと言われています。

人権は誰もがもっている権利ですから、それは、私たち一人一人が大事にされるということであり、お互いに大事にしあうということでもあります。自分を大事にする、人も大事にするから、お互いに安心できるのです。だから、誰かの権利をないがしろにすることは、決してあってはならないのです。

「私も大事、あなたも大事」であるために、あなたは何をしますか?何ができますか?

みんなで考えていきましょう。

人権週間(12/4~12/10)にあわせ、子どもたちと人権について考えたく、全校朝会で話しました。『誰か』のことではなく「自分」のこととして考えることを大切にしていきたいと思います。



冬季休業中の夜間、土日、学校閉庁日の緊急連絡先について

教育委員会

夜間や休日の場合は教育委員会緊急用携帯

※12月26日(金)~1月4日(日)は学校閉庁日及び週休日です

いじめ見逃しゼロ強調月間

生活指導主任

11月は、第2回いじめ見逃しゼロ強調月間でした。この期間に、いじめアンケートや教育相談(スマイルタイム)等の取組を実施しました。

その中の一つの取組として11月11日(火)に、生活向上委員会が中心となって企画した第2回いじめ見逃しゼロスクール集会が行われました。6月に各学級で考えたいじめをなくす取組について、実際に活動してきた内容や学級の様子、現在も継続して取り組んでいることなどを紹介しました。今後学級で取り組みたいこととして「なかよし宣言」や「一人一人を大切にする合言葉」の発表も行いました。ふわふわ言葉を使うことや、友達の頑張りやよいところを見付け、それを伝え合う活動を継続しています。また、異学年で構成されているなかよしあすなろ班で、「みんなでジャンプ」というゲームをしました。班ごとに手をつないで輪になり、掛け声を揃えて前後左右にジャンプしていきます。うまくいってもいなくても、みんなの笑顔が広がる時間でした。これからも一人一人が安心して気持ちよく過ごせるように、「みんなスマイル東小～一人一人を大切にしよう大作戦」を続けていきます。

いじめは、どこの社会でも起こりうることだと言われますが、燕東小学校では、全校で、いじめを許さない・いじめを見逃さないという意識をもって、みんなが笑顔で過ごせる燕東小にしていきたいです。毎日の仲間との関わりを大切にしていじめを生まないようにし、仮にいじめが起きたとしても、即時対応に全職員で努めていきます。何か気になること、ご心配なことがありましたら、いつでもお知らせください。



あすなろフェスティバル

児童会担当

11月28日(金)、「あすなろフェスティバル」を行いました。あすなろフェスティバルを通して、楽しい学校生活を築いていこうとする態度を育てることや学級でお店を開くことで、学級の仲間との絆を深めることをねらいとして、あすなろ委員会主催で行われました。

2年生から6年生までの各学級がお店を出し、ペア学年の友達と一緒に楽しく回りました。あすなろ委員会の「ゴミを出さない」「学校にあるものを活用する」という提案をもとに、工夫を凝らしたお店が並びました。2年生は「はてなボックス&さかなつり」、3年1組は「風船落としちゃだめよゲーム」、3年2組は「カーリングゲーム」、4年生は「オバケーランド」、5年生は「ペットボトルダーツ」、6年生は「私が来た！ヴィラン討伐シューティング」、さらに、今年もPTA 会長団による「ドキドキ色あてゲーム」が加わり、会場は大盛り上がり！「いろいろなお店があって楽しかった」「もっと回りたいかった」「お客さんに喜んでもらえてうれしかった」など、子どもたちの笑顔があふれる一日となりました。

参観にお越しいただいた保護者の皆様、温かい声掛けや一緒に楽しんでいただいたことは、子どもたちにとって大きな励みになりました。ありがとうございました。

